

やまぐち 会報



山口市常栄寺



宇部支部「法17条地図作成作業」



中国ブロック協議会 定例総会 西本連合会会長



下関馬関まつり



中国ブロック協議会 講師 碓井照子奈良大学教授



山口県土地家屋調査士会

CONTENTS



No.85 - 2003

9

山口県土地家屋調査士会役員名簿		1
会長就任の挨拶	会 長 瀬口 潤二	2
山口法律関連士業ネットワーク定期大会		
	広 報 部 長 無敵 良和	3
支 部 総 会		
	岩国支部長 大森 正秀	5
	周南支部長 戸倉 茂雄	6
	防府支部長 阿部 次男	6
	山口支部長 藤野 洋一	7
	萩副支部長 岡村 匠	7
	宇部支部広報協力委員 板垣 龍夫	8
	下関副支部長 宮崎 幸三	9
「杭の日」の報告		
	周南支部長 戸倉 茂雄	11
	防府支部長 阿部 次男	11
	山口支部長 藤野 洋一	12
	宇部支部広報協力委員 板垣 龍夫	12
	下 関 支 部 楠木 梨絵	13
第1回支部研修・第2回パソコン講習会開催		
	下関支部企画委員長 清水 浩二	14
VRS - RTK による GPS 測位を体験した		
	萩 支 部 廣石 勝	15
司調共催囲碁大会の開催について		
	山 口 支 部 渡邊満洲生	16
会員の作るページ		
故郷のスケッチ (訂正とお詫び)	萩 支 部 廣石 勝	17
「ホノギ」再考	下 関 支 部 前田 博司	18
時の流れに身をまかせ	岩 国 支 部 中島 順一	22
政連だより	山調政連会長 乗川 良介	24
事務局だより		
会員異動状況		26
会務報告		29
広報部からのお知らせ		30

山口県土地家屋調査士会役員名簿

任期 平成15年5月～17年5月

役 職		氏 名	支 部	役 職	氏 名	支 部		
会 長		瀬 口 潤 二	宇部	名 誉 会 長	乘 川 良 介	周南		
副 会 長	担 当	総 務 ・ 財 務	三 好 一 敏	萩	顧 問	三 好 敏 夫	萩	
		業 務	浦 井 義 明	岩国	相 談 役	高 田 吉 雄	下関	
		広 報 ・ 研 究 室	西 本 聡 士	周南	"	小 嶋 慎 一 郎	山口	
理 事	総 務 部	常 任 理 事	吉 田 多 里	宇部	"	山 根 勇	防府	
		部 員	渡 邊 満 洲 生	山口	参 与	山 崎 耕 右	山口	
		"	廣 石 勝	萩				
	"	杉 山 浩 志 (兼 務)	岩国	研 究 室 長	西 本 聡 士	周南		
	財 務 部	常 任 理 事	杉 山 浩 志	岩国	境 界 鑑 定 委 員 会	委 員 長	打 越 充 浩	下関
		部 員	東 章	岩国		副 委 員 長	難 波 文 雄	岩国
	業 務 部	常 任 理 事	林 弘	周南		鑑 定 委 員	河 内 正 幸	岩国
		部 員	和 田 祐 二	山口		"	伊 藤 正 典	萩
		"	白 木 博	下関		"	林 弘	周南
	"	石 田 浩 三	防府	"		山 崎 耕 右	山口	
	広 報 部	常 任 理 事	無 敵 良 和	下関	注 意 勧 告 理 事 会	統 轄 理 事	瀬 口 潤 二	宇部
		部 員	富 永 弘	周南		理 事	三 好 一 敏	萩
"	藤 本 精 二	宇部	"	西 本 聡 士		周南		
監 事	代 表 監 事	松 田 昌 祐	周南	"		浦 井 義 明	岩国	
	監 事	渋 瀬 清 治	岩国	"		吉 田 多 里	宇部	
	"	八 木 哲 郎	山口					
予 備 監 事	予 備 監 事	池 本 賢 治	下関	ネ ッ ト ワ ー ク 理 事	瀬 口 潤 二	宇部		
網 紀 委 員 会	網 紀 委 員 長	野 村 幸 人	山口	"	無 敵 良 和	下関		
	" 副 委 員 長	井 村 剛	周南	" 担 当	富 永 弘	周南		
	網 紀 委 員	中 本 満 生	岩国	"	藤 本 精 二	宇部		
	"	石 田 豊	防府	協 会 派 遣 理 事	白 木 博	下関		
	"	長 田 幸 三	萩	会 館 維 持 管 理 員	瀬 口 潤 二	宇部		
	"	鶴 巻 栄 一	宇部	"	渡 邊 満 洲 生	山口		
	"	米 原 茂 樹	下関					
予 備 網 紀 委 員	予 備 網 紀 委 員	田 村 直 久	岩国	支 部 長	支 部 長 会 議 長	戸 倉 茂 雄	周南	
	"	長 尾 兼 男	周南		" 副 議 長	片 山 修 一 郎	萩	
	"	友 景 稔	防府		支 部 長	大 森 正 秀	岩国	
	"	柴 田 敏 明	山口		"	阿 部 次 男	防府	
	"	熊 野 美 智 江	萩		"	藤 野 洋 一	山口	
	"	高 野 一 夫	宇部		"	西 野 誠 二	宇部	
	"	福 田 眞 一	下関		"	打 越 充 浩	下関	

会長に再任されて



山口県土地家屋調査士会

会長 **瀬口潤二**

5月の総会において、引き続き会長職をお引き受けすることになりました。
なにとぞ、一層の会員の皆様のご支援をお願いいたします。

一期2年間、無我夢中でスケジュールをこなすのが、精一杯で、会運営の過程で、役員間にも多少の意見の相違が生まれたりもいたしました。

社会が大きく変化しており、役員の中に様々な意見があることは、むしろ健全なことであり、これを受け止めた上で、山口県土地家屋調査士会の舵取りをしていく覚悟であります。

土地家屋調査士を巡る様々な変化の中で、私は以下の自問をしています。

オンライン申請の時代に「土地家屋調査士」は生き残れるか？

.....生き残れる

ADR（裁判外紛争解決制度）は、土地家屋調査士を必要とするか？

.....国民は、土地家屋調査士を必要としている

地図作りへ土地家屋調査士は、参画できるか？

.....権利の地図は、土地家屋調査士がつくるべきである。

私は、国民が土地家屋調査士に何を求め、土地家屋調査士は、国民に対して何が提供できるのか、そして、国民にとって、土地家屋調査士制度は必要であるのかを具体的に明らかにすることが、「21世紀の土地家屋調査士像」を描く道だと思います。

今の大きな社会変革期には、様々な選択すべき道、現れてきますが、どの道が、「21世紀の土地家屋調査士像」が見える道であるのかを探る船頭として、会長職を務めたいと思いますので、暖かいご支援をお願いします。

山口法律関連士業ネットワーク定期大会及び講演会報告書

広報部長 無敵良和

去る7月30日、水曜日15:30から山口市湯田温泉のホテルニュータナカに於いて、山口法律関連士業ネットワーク定期大会が16:15から東京大学大学院工学部教授の清水英範先生による「これからのIT社会を考える」"もう一つの電子国土、江戸・明治への旅と近未来"と題する講演会が開催されました。

定期大会報告

昨年の当番幹事会である、中国税理士会山口支部連合会から今年の当番幹事会である山口県土地家屋調査士会へ今年般大会をもってその事務が引き継がれたものであり、平成14年度事業報告、収支決済報告については税理士会理事により、平成15年度事業計画案、収支予算案については土地家屋調査士会理事(私)によりその報告がされ、無事大会出席会員の承認を得たものであります。

ちなみに、平成15年度事業計画案とそれに伴う予算案を下記に示します。

平成15年度事業計画案

1. 定期大会開催の日に講演会等を開催する(定期大会当日に行われた清水英範先生の講演会)
2. 毎年士業の日とする11月11日に共同相談会を開催する(今年は土地家屋調査士会館に於いて開催する予定としております)
3. 各参加団体の専門性を生かして、共同研究として研究会・発表会等を開催する(今年度は平成16年2月頃に土地家屋調査士会館に於いて合同研修会を予定しております。)

平成15年度収支予算案

(収入の部)

科 目	金 額	備 考
前期繰越金	1,153,774	山口銀行普通預金
拠出金(活動費)	810,000	10万円×8+1万円×1会
定期大会懇親会会費	770,000	1万円×77人
雑収入	10,226	祝儀・利息等
合 計	2,744,000	

(支出の部)

科 目	金 額	備 考
会場費他	1,000,000	平成15年7月30日 ホテルニュータナカ 定期大会・講演会
講師料	200,000	
その他の費用	100,000	
会場費	30,000	平成15年11月11日
広報費他	250,000	土地家屋調査士会館 一斉共同相談会

会場費	30,000	平成16年2月予定
広報費他	100,000	土地家屋調査士会館 合同研修会
理事会会場費	10,000	理事会 × 3回
予備費	1,024,000	
合計	2,744,000	

本年度の事業計画については、土地家屋調査士会 広報部長を務めます私（無敵良和）がその事務を担当することとなっております。1年間ガンバって務めますので会員の皆様の御協力をよろしく申し上げます。

講演会報告

決して大げさな表現ではなく、この最近に聞いた講演会の中で最も興味深く、分かり易く、おもしろい講演会であったと思います。講演の内容を全て文章にしてお伝えするのは難しいのですが、私が特に興味を持ったのは下記の話です。

GISの技術により、地域情報をインターネットで何時でも、誰でも可能な限りリアルタイムに閲覧が可能になる“電子国土”構想についての話天保御江戸図をコンピュータ処理により現在の航空写真に重ね合わせた天保当時と現在の地理的な比較、江戸の街並みと現在の街並みの移り変わりを鳥瞰図等の映像を交えながらの話

清水先生のコンピュータグラフィックス等の映像を用いた講演は、かなり我々土地家屋調査士の業務に近い専門的な内容ではありましたが、土業ネットワーク内の土地家屋調査士会以外の方が聞いても大変興味深い講演であったことと思います。

清水英範先生のプロフィール

所 属：東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤工学専攻

役 職：教授

研究室：地域／情報研究室

連絡先：〒113 8656 東京都文京区本郷7 - 3 - 1

東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻

TEL：03(5841)6129 FAX：03(5841)7453

e-mail：shimizu@planner.t.u-tokyo.ac.jp

Office：工学部1号館3階 343号室

略 歴：昭和34年、愛知県生まれ。東京大学土木工学科卒。東京大学助手、岐阜大学助教授などを経て、平成10年4月より東京大学教授。工学博士。

講 義：学部：空間情報工学、測量学、土地学概論

大学院：Spatial Statistical Analysis

専 門：地域計画の高度化を目標とした空間情報科学

特に、計量地理学、画像解析、空間統計解析、地理情報システム、人文地理学など

岩国支部定時総会の報告

岩国支部長 大森正秀

日時 平成15年5月17日(土)午前10時

場所 玖珂郡由宇町深山

「山口県ふれあいパーク」

風向明媚な瀬戸内海の島々が一望に見渡せ、まるで箱庭を見るような景観を楽しませてくれる「山口県ふれあいパーク」で今年も支部総会が行われ、来賓の瀬口会長の挨拶の後、出席25名、委任状出席15名の報告があり、議事の進行に入りました。

平成14年度事業報告が行われ、史跡めぐりが盛大に行われ、会員の協力に対して浦井前支部長から御礼と感謝の言葉が述べられました。また土地家屋調査士を巡る環境が大きく変わり、平成15年8月1日から会則の改正により、

- ① 会則から報酬に関する規定が削除され、法務大臣認可の報酬額表は廃止されることになり、自主的に作成した報酬額表を明示する義務を有し、これを事務所に掲げること。
- ② 研修の義務付け
- ③ 岩国支部においても動きがあるように土地家屋調査士法人の設立が認められたこと。
- ④ 土地家屋調査士会は会員の業務に関する紛議の調停をすることができる。
- ⑤ 懲戒に関する規定の整備

等、これらのことに対処するためにも、企画委員を中心に積極的な支部研修を行うことを事業計画に盛り込みました。

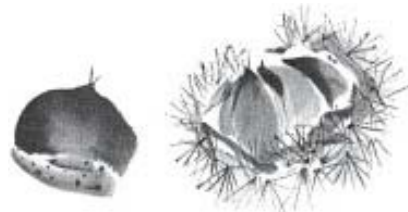
つぎに収支決算報告や収支予算審議に入り、質問から討論に入り監査報告や役員改選もスムーズに行われ、無事終了しました。

午後1時から支部研修が行われ、会員に教わりたいこと、会員に伝えたいことなど10名が意見発表を行いました。

その内容は、

- ① 山から下山する時、道に迷わない方法 (中島会員)
- ② 2棟の建物を1個の建物で登記する方法 (益田会員)
- ③ 苦情処理の仕方 (比良会員)
- ④ 地図混乱地域における建物表示登記について
- ⑤ 調査士法人の税務について (尾崎会員)
- ⑥ プレハブの物置を附属建物として登記することについて (荒川会員)
- ⑦ 報酬の回収について (河内会員)
- ⑧ 業務・事務・会費・顧客・受託番号など全てのものに番号をつけよう。(浦井会員)

以上のことについて喧喧諤諤、異論・反論が行われ午後5時頃研修を終え夕食後解散しました。



「平成15年度周南支部定時総会」

周南支部長 戸倉茂雄

6月13日金曜日、周南市築港町のホテルサンルート徳山において、周南支部の定時総会が開催されました。徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併し誕生した周南市となって初めての総会です。山口地方法務局徳山支局も周南支局と名称が変わりました。どこもかしこも景気の悪いはなしばかり耳にしますが、これを機会にぜひとも周南に「元気」を取り戻したいと思います。



総会風景

周南支部定時
総会の報告



防府支部定時総会の報告

防府支部長 阿部次男

去る4月25日(金)午後3時より防府市中央町の「中谷」において瀬口潤二山口県土地家屋調査士会会長をお迎えして防府支部総会を開催した。会員20名の小さな支部であるが、次のとおりの議事を審議した。

- (1) 平成14年度事業報告並びに収支決算承認の件（監査報告）
- (2) 平成15年度事業計画案並びに収支予算案承認の件
- (3) 平成14年度証紙会計収支報告の件（監査報告）
- (4) 次期役員選任の件

尚、役員改選については次のとおり新役員が決定した。

	役 職	氏 名
本 部 役 員	理 事	石 田 浩 三
	網 紀 委 員	石 田 豊
	同 予 備 委 員	友 景 稔
	役員推薦委員	徳 本 富士男
	役員推薦委員	山 本 三喜夫

総会後の懇親会は土地家屋調査士会、司法書士会、両防府支部会員の出席で行われた。両支部の慣例により本年度は調査士会防府支部が両会の合同行事の幹事することになっており同懇親会がスタートとなった。また両会会員及び補助者、職員を対象として集団健康診断を6月28日(土)に行った。10月4日、5日には両支部の合同親睦旅行として、琵琶湖、京都方面を計画しております。この一年間は両会のお世話係として皆さんに喜んで頂けるよう、がんばっていききたいと思います。

	役 職	氏 名
支 部 役 員	支 部 長	阿 部 次 男
	副 支 部 長	檜 山 高 明
	理事（企画）	林 俊 男
	理事（企画）	松 田 光 則
	幹 事	玉 田 哲二郎
	幹 事	三刀屋 康 之

山口支部定時総会の報告

山口支部長 藤野洋一

平成15年6月28日(土)午前10:00より山口県土地家屋調査士会館3F会議室にて、定時総会を、開催した。

内容は、例年通りで、目新しい議題はなかった。

*ひとりごと

今まで、大変失礼な話ですが、総会、会合、行事等に不参加でしたし、忙しさにかまけて、会の役員から逃げて、先延ばしにしてきましたが、この歳になり、初めて会の役員になり、はじめて役員の皆様の苦勞が実体験でわかりつつありますが、今回参加して気付いたこと皆様も同様？と思います、何かにつけ腹が

立つことが多くなりました。

- ・会員の中に、公の席で相手に対する無礼な内容の発言がある。
- ・閉会后あるいは、開会前にそっと担当の役員に提言すれば済む発言、会場での発言に及ばない、議事に影響のない些細な発言がある。

それらの発言は、現在の風潮の一端であると思いつつ、会合に出席して少し寂しく思いました。会に限らず、世事全般、人間としての心が失われていくようで.....私のひとりごとでした。

おっと、私は、決して心豊かではありません。念のために。

平成15年度萩支部総会について

萩副支部長 岡村 匠

1. 日 時 平成15年5月23日(金)
午後3時～午後4時
2. 場 所 大谷山荘
3. 来 賓 山口県土地家屋調査士会会長
代理 三好一敏 殿

総会は支部長挨拶、来賓祝辞に続き、平成14年度事業報告、収支決算書の承認、平成15

年度事業計画案、収支予算案が承認され、役員選任について議決された。

今年度の技術研修としてGPS測量を体験するために測量機器メーカーを招いて講習会を開く予定である。また岩国支部で実際に運用されている様子を見学する。

第56回宇部支部定時総会について

広報協力委員 板垣龍夫

1. 日時：平成15年5月23日
午後5時～6時
2. 場所：小野田市焼野海岸
きらら交流館研修室
3. 来賓：山口地方法務局宇部支局長代理
青井好博統括登記官殿
山口県土地家屋調査士会会長
瀬口潤二殿
山口県公共嘱託登記土地家屋
調査士協会理事長 水津久太郎殿

例年、土地家屋調査士会宇部支部と司法書士会宇部支部は、同一会場において時間をずらして総会を合同で開催してきた。しかし、本年は土地家屋調査士会宇部支部単独で総会を開催した。

議長選出に続き、各議案の審議が行われた。その結果、「平成14年度事業報告ならびに収

支決算書」については、原案どおり承認可決された。引き続き、「平成15年度事業計画案ならびに収支予算案」が執行部より説明された。これに対して会員より、GISや法務局の地図管理システムに関する研修会を実施してはどうか、という意見が出された。支部長から、これらの意見をふまえて支部研修を実施するとの回答がなされ、この議案についても承認可決された。

本年は支部役員改選の年であり、新役員についての執行部案が提出された。審議の結果、賛成多数にて執行部案が承認可決され、総会を終了した。

その後、スペイン料理店「ソルポニエンテ」にて懇親会が開催された。美しい焼野海岸の夕景を望みながら親睦を深め、盛会のうちに懇親会を終了した。



下関支部平成14年度定時総会報告

下関副支部長 宮崎幸三

去る6月21日土曜日、下関市赤間町の東京第一ホテル下関に於て、例年どおり司法書士会下関支部との合同で土地家屋調査士会下関支部総会が開催されました。

慣例により本年度は午後3時から司法書士会、午後4時から土地家屋調査士会がそれぞれ単独で、午後5時からは合同総会という形で開催されました。

土地家屋調査士会単独の総会は、合同総会に先立ち来賓としてお迎えした瀬口潤二山口県土地家屋調査士会会長の同席のもとに開始され、下野洋二支部長挨拶の後、議長に選任された無敵良和会員の進行により、予定された議案全ての審議が淡々と進められました。

第1号議案平成14年度事業報告・収支決算報告承認の件及び第2号議案平成15年度事業計画案・収支予算案承認の件が下野洋二支部長、清水浩二企画担当理事、大田浩治会計担当理事により提案・説明され、滞りなく賛成多数により承認可決されました。支部事業としてPR活動で始めた、真夏の馬関祭出店も年間行事としてすっかり定着した感があります。

次に第3号議案の会則変更に伴う支部規則改正の件については、改正点が変更後の会則の条・項・号に準じたものが主であることと、法人会員と自然人会員との区別をする為の支部に所属する調査士会員の定義が下野洋二支部長から提案理由の説明の中で行なわれ、審議の結果賛成多数により承認可決されました。

最後に本総会の重要案件であると思われる第4号議案役員任期満了による改選の件について、役員選任委員長の溝口保二会員から選任委員会での経過、委員長としての見解等の説明があり、選任結果として新支部長に、本部広報部長として伊能ウォーク協力隊の責任者として大活躍をした、打越充浩副支部長及びその他の役員を推薦する旨の提案がなされました。委員長の説明が理路整然としたものでしたので、この件が賛成多数で承認可決されたことは言うまでもありません。

他支部の参考のため下関支部新旧役員名簿を以下掲載します。

	役 職	旧役員氏名	新役員氏名
支 部 関 係	支 部 長	下 野 洋 二	打 越 充 浩
	副 支 部 長	打 越 充 浩	宮 崎 幸 三
	理 事	田 代 雄 三	義 満 一
	理 事	義 満 一	清 水 浩 二
	理 事	本 島 義 博	大 田 浩 治
	理 事	清 水 浩 二	福 田 幸 秀
	理 事	大 田 浩 治	秋 里 秀 男
	監 事	高 野 成 雄	高 野 成 雄

	役 職	旧役員氏名	新役員氏名
支 部 関 係	監 事	時 野 博 道	時 野 博 道
	広報協力員	打 越 充 浩	宮 崎 幸 三
	企画委員	清 水 浩 二	清 水 浩 二
	企画委員	中 橋 明 弘	秋 里 秀 男
	企画委員	藤 山 政 志	竹 田 順 一
	企画委員	井 上 信 宏	山 崎 義 文
	企画委員	秋 里 秀 男	楠 木 梨 絵
	役員選任委員	溝 口 保 二	溝 口 保 二
	役員選任委員	米 原 茂 樹	米 原 茂 樹
	役員選任委員	福 田 眞 一	福 田 眞 一
本 部 関 係	理 事	宮 崎 幸 三	無 敵 良 和
	理 事	無 敵 良 和	白 木 博
	予備監事		池 本 賢 治
	綱紀委員	福 田 眞 一	米 原 茂 樹
	予備綱紀委員	米 原 茂 樹	福 田 眞 一

以上のとおり、下関支部単独総会は予定どおり粛々と進められ、午後5時からは袂下関市助役（市長代理）をはじめ、司法書士会会長下瀬豊晴様、本会会長瀬口潤二様、他関係団体下関支部長様を来賓にお迎えして両支部合同総会が開催されました。

来賓祝辞の中で瀬口会長の・・・今回の土地家屋調査士法改正の要点は多々あるが、その内でもっとも重要なのは報酬体系であり、会員一人一人が自分の報酬計算に責任を持てる様研鑽しなければならぬ。・・・と言われたことが強く印象に残りました。

このあと両会の来賓紹介、祝電披露、会員表彰、新入会員紹介が行なわれ、平成15年度司法書士会・土地家屋調査士会両下関支部定時総会は無事幕を閉じました。終了後約1時間半ほどの懇親会が開かれ、来賓も交えて会員同士、話の花を咲かせたことも合わせてご報告いたします。



杭の日報告

周南支部新聞広告

周南支部長 戸倉茂雄

杭を残して悔いを残さず
境界杭は設置されていますか?
9月1日は「杭の日」です。
皆様の大切な財産である土地の境界杭の設置は、不動産表示登記の専門家である最寄りの土地家屋調査士事務所にご相談下さい。
山口県土地家屋調査士会 周南支部

周南支部は無料相談会を行っておりませんが、新聞広告を行ないましたので掲載します。



防府支部

防府支部長 阿部次男

防府支部では本年度の『杭の日』相談会を8月30日に行いました。(9月1日は平日のため土曜に行った。)

例年のように折込みチラシへの掲載(2回)と市内発行の新聞『ほうふ日報』への広告掲載2回を行いました。

本年度は会場を山口県公共嘱託登記土地家屋調査士協会防府支部の事務所で行ったため、会場案内の看板を3枚作成致しました。来訪者は計10組17名を数え、年々増加しておりこの事業を継続して行く大切さを感じました。杭の大切さをこれからアピールしていきたいと思います。

杭を残して悔いを残さず

～あなたの土地は、永久境界標識がありますか?～

く い くい
9月1日は「杭の日」です

土地の境界が未定で困っておられませんか? 私たち土地家屋調査士が、下記のとおり無料相談会を開催しますので、お気軽にご相談下さい。

記

日 時 8月30日(土) 午前9時～午後3時

場 所 山口県公共嘱託登記土地家屋調査士協会 防府支所にて
防府市寿町1番19号(尾中ビル2F) * 防府市役所本館北

相談内容 永久協会標識埋設、協会確認、土地・建物の調査、測量、登記

主 催 者 山口県土地家屋調査士会防府支部 (連絡先: ☎24-1008)



杭の日の無料相談会の報告

山口支部長 **藤野洋一**

- 1 日 時
平成15年9月1日(月)
午前10:00～午後3:00
- 2 場 所
山口県土地家屋調査士会館
玄関ロビー
- 3 相談者数
1名
女性70代
内容 土地の境界についての相談
- 4 経費 約62,000円



『杭の日』の無料相談会の報告

宇部支部広報協力委員 **板垣龍夫**

日時 平成15年9月1日午前10時～午後3時
場所 シルバーふれあいセンター

当日は、会場設営をしているところに既に相談者がお見えになり、設営を済ませるまでまっていたいただき、相談を始めるという出足の良いスタートとなった。

相談者は午前中5人、午後2人の計7名の方を迎えた。相談内容は境界の問題が殆どであり、解決の方法を探る為に、又費用はいくらかかるかといったものであった。



第3回 馬関まつり出店

下関支部 楠木梨絵

下関の夏を締めくくる「馬関まつり」が、去る8月23日(土)、24日(日)に行われました。「土地家屋調査士」のPR活動の一環として露店の出店を始めて今回で3回目となります。

今年の馬関まつりは参加企業や団体が減ったことでパレードの中止、露店の減少など規模が縮小されたものの、好天(というよりも猛暑)に恵まれ人出は二日間で計38万5千人と大勢の観客でにぎわいました。

《23日(土)お祭り1日目》

午前8時半、集合場所の司調会館へ向かうため自転車で家から飛び出したものの、あまりの暑さに引き返し車へチェンジ!今日は生ビールが売れ売れの予感...

今年の設営場所は露店が多く集中するブルーパール通りの海峡メッセ前で販売メニューは焼きそば(300円)と生ビール(300円)です。清水企画委員長号令の下テキパキと準備が進められ11時頃には完了、お待ちかねの焼きそば試食タイムへと移っていきます。焼きそばをこの馬関まつりで作り始めて3年目となる清水企画委員長の腕前はすでにプロ級。この祭りの二日間だけは企画委員長改め清水料理長と呼ばせて頂きます。(心の中で)

昼間はガラーンとしていた通りも夕方からどんどんと人通りが多くなり焼きそばも生ビールも順調に売上を伸ばし忙しさもピークに...と、その時、辺り一帯の照明が消えてしまうというハプニングが!真っ暗になりざわめく祭り会場、しかしまるで何事もないかのように黙々と作業を続ける会員一同。いかに皆

が集中していたかを物語る一場面でした。そんなこんなで9時前には焼きそば、生ビール共に完売となり1日目は早々の店じまいとなりました。

《24日(日)お祭り2日目》

まわりのお店に動きが...昨日までは我ら調査士会以外のお店の生ビールの値段は400円だったのですが、一律に300円まで引き落としているのです。果たして今日の生ビールの売上は?

日が高いうちは相も変わらずまばらな人通りも夕方からは大混雑に。国道9号細江大通り会場の平家踊りで祭りのクライマックスを迎える頃、私たちの忙しさも最高潮に...

「焼きそば300円!生ビールも300円!」「いらっしやいませ~」だんだんと大きくなる呼び声。かれこれ4時間近くひたすら焼きそばを焼き続けている清水料理長。何かに取り憑かれたかのようにスピードアップしていく皆の手元。飛ぶように売れる焼きそば、心配していた生ビールの売れ行きも絶好調!このテントに商売の神様降臨中?!というくらい押し寄せるお客さん達。うれしい悲鳴です。二日目も9時前に完売!祭りが終わった後はもう全員クタクタでした。

二日間でのスタッフ参加者は延べ人数で約40名、売上総数は焼きそばは前年比約1.5倍。生ビールに至っては約2倍です!

企画委員内では、早速来年の販売メニューについて思案中です。何か良いアイデアがあれば是非お聞かせください。

最後になりましたが打越支部長をはじめ下関支部会員の皆様、馬関まつりを盛り上げてくれた数多くの方々に感謝し、祭りの報告といたします。

第1回支部研修・第2回パソコン講習会開催

下関支部企画委員長 清水浩二

平成15年度の第1回支部研修として7月12日午後1時から下関市長府扇町の下関勤労者総合福祉センター（アクティブセンター）第2研修室で第2回パソコン講習会を開き、会員と補助者25名が参加されました。

今年3月にこの会場でエクセルとワードの初級編を学習しましたが、今回はその続編で基礎に重点が置かれました。初めに打越新支部長が「業務に使うことの多いソフトなのでしっかり身につけましょう」と挨拶。そして、前回は講師をつとめてくださった山口視聴覚機器の曹先生にバトンタッチし、まずエクセルの講習から始まりました。

エクセルでは、セルと呼ばれるマス目に文字や数字を入力していきますが、例題の入力作業をしたうえでセル内のデータの配置を変

更したりする方法をはじめ、請求書のサンプルを使って消費税の計算式を入力したり、日付の自動入力、端数処理の関数を用いるところまで学習しました。

10分間の休憩をはさんでワードでは、罫線で簡単に表を作る方法を集中的に学びました。調査士は業務上、立会証明書やその他いろいろな書類で表や罫線枠を作る機会が多いと思われるので、ぜひ講習内容を役立てていただきたいと思います。

今回もパソコン台数よりも参加者の方が多い状況で、若干名にはパソコンの操作を横で見させていただくような不便な状態で受講をお願いしましたが、皆様のご協力で滞りなく終えることができました。次回は8月30日に同じ会場で開く予定です。



VRS - RTK による GPS 測位を体験した

萩支部 廣石 勝

8月23日の午後、萩支部の技術研修として、測量機器販売業者のお世話により、萩市内において、VRS - RTK による GPS (Global Positioning System) 測位を体験した。

VRS (Virtual Reference System) とは、仮想基準点方式のことであり、移動局に真近に仮想的な基準点を創生することにより基準点からの距離に依存しない (= 基準点から 10 km 以上離れていても) 高精度の RTK (Real Time Kinematic) 測位を可能とする。

実際の運用としては、全国にリアルタイムデータを配信している電子基準点を使って VRS 網を組むのである。

GPS 受信機 1 台と GPS アンテナ 1 台とコントローラ 1 台により、モデムを介して携帯電話を使って、観測者の位置を VRS センターに送信したら、センターの方で仮想基準点を創り、仮想基準点の情報を観測者に送信し、測位を可能にするシステムで、測位精度はプラス、マイナス 1 ~ 3 cm である。

計測は 1 人でできるが、一式の価格は 200 万円くらいである。外に VRS を行うためには、GPS データサービス(株)とデータ配信の契約が必要となる。

公共座標から引っ張ることもできるし、世界測地も可能である。

実際に萩市内の公共基準点を使って、距離をチェックしてみたが、中々、良い精度が出た。

常時、衛星が取れば、即座に座標が出てくるので、便利である。

私のイメージとしては、GPS と言えば、重装備で、高価で、処理が難しいと言う感じ

を持っていた。しかし、このシステムは小型、軽量で使い易いように感じられた。調査士の業者で、仕事をバリバリ、能率的にしようという方には、少し頑張れば、購入することができ、使いこなせるだろう、と感じた。色々 PR しましたが、私は広告料は貰ってはいません。

萩支部としては、さらに GPS を勉強するために、9月21日~22日にかけて岩国支部と合同で、「GPS 運用の実態、誤差の考え方・見方、17条地図との関係」を研修目的として、研修会をします。

この研修会の報告は、正副支部長、出席会員に譲ることとする。



司調共催囲碁大会の開催について

山口支部 渡邊満洲生

例年8月の最終日曜日に開催されております司調共催囲碁大会が下記のとおり開催されました。

記

1. 日 時

平成15年8月31日(日)

午前9時30分～午後3時

2. 場 所

山口市駅通り二丁目9-15

山口県司法書士会館



3. 参加者 10名

(司4名、調2名、司調兼業3名、
法務局1名)

4. 成 績

優勝 渡邊 展行 2級

(司 4勝1敗)

2位 渡邊満洲生 三段

(司・調4勝1敗)

3位 谷村 健一 三段

(司・調3勝2敗)

4位 大井 馨 初段

(司 3勝2敗)

5位 石田 豊 三段

(調 3勝2敗)



会員の作る ページ

故郷のスケッチ—宇田郷ふれあい祭り

秋支部 廣石 勝

田舎の農村部では、秋の収穫が終わると、収穫の感謝と農作業の区切りのために、各地でその地域の祭りが行われている。

私の故郷である阿武郡阿武町宇田郷もそうである。

ここの祭りは例年、11月の第2日曜日に地域住民の拠点施設である“ふれあいセンター”で行われている。

祭りの目玉は、福引大会、もちまき、無料ふく汁コーナーそしてコンサートである。

私は今、町内会の公民分館長の世話役をしているので、この祭りのお世話をしている。



広報部から 訂正とおわび

2003年5月号13～16頁において、下関支部前田博司会員の「障子」の変容の文中で「蠅」を「蟬」と誤って掲載しておりましたこと訂正してお詫び申し上げます。

「ホノギ」再考

下関支部 前田博司

1. ホノギとは

かつて山口県内のホノギについて論じたことがある（山口県土地家屋調査士会『会報やまぐち』平成6年第57号所載拙論「穂ノ木について」）。現会長瀬口潤二氏との当時の議論を振り返ると懐かしい。そのころ、私は数筆程度の土地の集まりをホノギと理解し、瀬口氏は一筆の土地をホノギと言うと主張されて、お互いに決着がつかないままで、ホノギ論争は中断している。

いったいホノギとは何か。山口県域においては「穂ノ木」と書かれたりして、藩制時代の諸資料や分間図などにその記載が見えることは前回に記したので、できるだけ再述は避け、新たに確認できた資料によって、ホノギについて再考したい。

1982年の『地理』7月号（古今書院発行「地名の世界」）所載の、川野茂信氏のレポート「長宗我部地検帳のホノギと小字の関係について」には、「ホノギは一般的には小地名と解されているが、本来の語源は仄、風記『大言海』、側記（『伊呂波字類抄』）であって、地籍登録の本体部分ではなく、ほのかに添えて書かれた「地籍一筆の見出しの働きをする小肩書き」のことである。本体の地籍とその他の部分もあわせて、一筆の土地をそれと明確に把握させるための指示作用にその本質がある。」とされ、川野氏は太閤検地の一環とされるこの地検帳に見えるホノギを分析して、「地検帳ホノギは次の三つに分けることができる。（ア）すでにある小区画名（小字程度の）を利用したホノギ、（イ）一筆のみ独立した地点名的（極小区画の）ホノギ、（ウ）ある地点（目標）を起点として一連の測量を「同じ」

と続け、そのよりどころとなった目標で代表されて小区画名に成長するホノギ」とされている。このレポートによって、四国地方においては、織豊政権の頃から、すでにホノギの呼称があったことがわかる。

これと関連して、『九州古代史の会ニュース』第84号（1999年3月21日発行）には、「「紫宸殿」それはホノケだった」とする淵江順三郎氏のレポートが載せられている。このなかに「（太宰府天満宮権禰宜の）味酒氏の御教示によると、この地方では小字の下に「ホノケ」という呼称単位があるようで」として、『太宰府市史・民俗資料編』第5巻の「地名の由来」に“ホノケ浄戒畑”“ホノケ車道”“ホノケ頓御殿”などがあり、「これを見て分かることは、大字＝広い地域、小字＝大字のうちの狭い地域、ホノケ＝さらに狭い特定の場所ということです」とあり、太宰府ではホノケと呼ばれていたことがわかる。柳田国男が「四国・中国あたり」の呼称（『地名の研究』）とされているホノギが、九州でも使用されていたことになる。『山口県近世史研究要覧』には「穂ノ毛ともいう」とあり、この太宰府での用例と共通する。楠原祐介・溝手理太郎編『地名用語語源辞典』には「穂の毛 ほのぎ。」とする。

2. 山口県域におけるホノギ

つまるところ、前述した川野氏の分類で言うホノギの（イ）の見解に瀬口氏は立たれ、私は（ウ）に拠ったことになる。

もちろん「長宗我部地検帳」のホノギの例をもって、山口県域のホノギに宛てることには多少無理があることは言うまでもない。

藩制期については『清末藩旧記』第19冊収

載の「元禄三年午三月御領内村々楮株数改帳写」は、註記には「各村共穂木名・株数・新古別・人名別にして一筆別の記上あるも」と見え、12ヶ村に穂木名301、筆数906の記載がされている。これによると、穂ノ木には側記名称があり、穂ノ木名1箇所について約3筆の区画を持つことになる。

本藩である萩藩の史料にも、ホノギが多く見受けられる。「二十八冊御書付」第10冊収載の「御検見被仰付様の次第覚」に「付、検見田の能田を出候へは検見下り無之付脇々の田地を借り、ほのき引違仕事も有之候」（検見田の能（良）き田を出し候へば検見下り無きに付き、脇々の田地を借り、ほのき引き違え仕る事も有り）という記述がある。検見田に選ばれた田地の持ち主が、検見手続きの煩雑さを厭って隣のホノキの田と検見田をすり替えるような事態もあったのだろう。

「四冊御書付」二ノ巻には「委細穂ノ木付を以」などと田地の確定を絵図などに求めている。「御書付其外後記要集」十一の「永否并検見算用の事」にも「穂ノ木付を以地下窵書差出」云々とある。中世においては田地の確定が「坪付」でなされているから、「穂ノ木付」はこの「坪付」にならったものと思われる。

「大津郡久富村粟屋平左衛門殿知行所田畠小村七拾三ヶ所之絵図」（油谷町中央公民館蔵）には「四十三 森ノ本村」として「以上五穂ノ木」の記載がある。この記載による限り、一区画を穂ノ木と称し、その数個の集合をもって一つの「小村」としている。ここでの「小村」は現在の「字」（つまり小字）に相当するようだ。この絵図に示すホノギの各区画には、収量・地目・地積・耕作者などが記載され、その区画内に存在する家屋の形状なども描かれている。

ところで、『豊浦藩旧記』第71冊の「検見並不作田否所之事」中に、ホノギについて次のような記載がある。

「一、被差出候御役人不残立合入札治仕、ホノギ限庄屋作人立合候事」（差し出され候御役人残らず立ち合って入札を治仕し、ホノギを限り庄屋・作人立ち合い候こと）

「一、於時検見所多候得八手合致検見之通ホノギ限二宿本ニテ庄屋作人へ申聞請合候事。」（時として検見の所が多く候えば、検見の通り手合（テゴ・加勢）致し、ホノギ限りに、宿もとにて庄屋・作人へ申聞請合候こと）検見方法 一、検見田字反別高持主名前等木札二書記シ、検査前検見田ノ穂ノ木毎二立置ナリ。」

明治11年10月日付けのこの文書によれば、現在1筆と称されている土地の区画がホノギということになる。もっともこれは維新後の、豊浦（長府）藩が消滅した後の史料なので、時間的な配慮が必要であろう。

山口県文書館所蔵の『山口県地租改正沿革誌』の「地押」の項には「其旧図ニ照シ見取図（一穂ノ木別ヨリ成立一字限リトス）ヲ製シ順次地番ヲ付シ」とあることから、明治初年の地籍図作成に際しては、瀬口氏が言われるように「一穂ノ木」が「一筆」に比定されたものであろうか。

ホノギは絵図の記載によって特定され、簿冊ではその特定を助ける記載が右肩に付記される。それがホノギ名とされるものであり、地名に準ずる記載というべきであろうか。従って、長宗我部地検帳などにいう「地籍一筆の見出しの働きをする小肩書き」がいわゆるホノギ名なのかもしれない。場所が特定できそうでいて、でも“ほのかに”曖昧な表現の区画、それがホノギ名と考えられる。

ホノギの制度が明治以降、現在の「一筆」

に移行したものであろうか。「一筆」の区画は地名を持たないけれど、ホノギはその区画を統括する「字」に含まれ、地籍の記録から外されたことに伴って、その地名あるいは地名に準じる呼称を失うに至ったものと、私は考えている。

3. 「開作」の区画

自然地形の土地は、それぞれに何らかの地理的な特徴があり、その特徴でもって地名あるいは地名に準ずる呼び名で表示できるが、新たに干拓あるいは開墾された「開作」地については、当然のことながら、各区画の特徴はほとんど見られない。

『清末藩旧記』に見えるように、開作を請け負った者の名を冠した「勘左工門啓・六左工門啓・字小左工門啓」(第22冊所載「寛保元年〔享保中六筆新田検地免改一件〕」)といった新規石盛の記載が見える。この史料には、「千房沖新啓 勘左工門啓、同 六左工門啓」とあって、その後に「右二筆」とある。つまり同一字地での開作が二筆以上の場合に「筆」の記載が現われている。「延享四年〔坪入御究〕」でも同様である。ここでは「千房新田新啓 源左工門啓、同 孫右工門啓、同 彦七啓 右三筆」などとあって、字地は千房新田新啓、ホノギ(筆地)は源左工門啓・孫右工門啓・彦七啓ということになるうか。

「安永五年新啓廿四筆悉坪入 内七啓新竿入」には、人物名を冠した「啓」地名が「以上式四筆」記載されている。文書の後に「清末村沖新啓式拾四筆之内」とあるので、総称の「清末村沖新啓」が字に該当するものか、あるいはまだ字名が付けられていないのか、明らかでない。そこに同一人物名の「啓」がいくつか見られるも、開作地ならでのことと考えられる。

一方『豊浦藩旧記』では、「開作検地畝石付 東豊浦郡才川浜」(同書第20冊)に、ホノギ名に相当する右肩の側記が「何番」といった数字で使われている。おそらく開作の絵図に記された、何らかの順序に基づく標記と考えられる。これも開作地特有の区画の没個性さなのだろう。

4. 「同所」「同」の扱い

ところで、藩制期の文書には、いわゆるホノギ名の側記に続けて「同所」或いは「同」とあるものが多々ある。区画が前の区画と同じ場所(小字かホノギか)に位置していることを示しているのだが、この「同所」などの記載をどう扱うかが問題である。

川野氏は「長宗我部地検帳」のホノギについて「ホノギの構造は主要部分と補助の部分とに分けることができる」とし、「同じ」というのも、ホノギ付に坪付された以上、これでちゃんとした一個のホノギでありとする(前掲「長宗我部地検帳のホノギと小字の関係について」)。

同氏は、ホノギ名分類の(ウ)を意識されているようだが、地名を持つ小字名と地名を持たない「筆」区画との間にある曖昧な部分が、この「同所」「同」の表現に凝縮されている。私としては、「同所」の表現までをホノギ名とするのには、いささか躊躇さざるを得ない。

5. 「町」区画について

ホノギあるいは現在の「一筆」の区画が、単一の平面であるかどうかは示されていないが、一般的には数枚の土地からなっていたものと考えられる。

形状的に一枚の土地は、「町(まち)」という呼びかたがされていた。『豊浦藩旧記』にも「町五ツ」「町十ウ」などといった記載が

見える(第19冊「堤かづき請状」享保15年)。「町」単位での“検見”はなされなかったらしい。『清末藩旧記』第22冊所載「寛保元年〔享保中六筆新田検地免改一件〕」には、「千房沖新田町三ツ」とも見える。

「まち(町) ①田の区画。区画した田地。(以下略)」(『地名用語源辞典』)が、耕作者を一にする土地の最小の区画であり、これにはおそらく地名はなかった。各絵図にも個々の「町」の記載はない。「町」は原則として、田の場合には、ほぼ同一水準面を持つ一区画だと考えられる。萩藩の「四冊御書付」には、「町数を以て」なされた傍示開作の穂ノ木には「町数を以て」も記すようにとの指示文書がある。「但、町数を以被遣候開作の儀八、委細穂ノ木付を以て、土地引渡相成善候処、其町数之外其近方八不残拜領の様二…」(「四冊御書付」二ノ巻)。

前掲の「堤かづき請状」は「右八才川村御田地ひやけ所二付て、今度松小田村南ケ迫二て新堤御願申上、被仰付難有奉存候。」とあるように、そこがかなり水回りの悪い(日焼け所)田地であることが推察され、17区画のうち16区画にその「町」数が記されており、1町4反3畝20歩の広さを持つ16区画中に、町数は101、つまり1区画は平均6.3町からなることになる。従って1町の広さは12.7坪しかない。

6. 小結

今回も「小結」で終らざるを得ないが、私なりの探求の結果として言えることは、次の事項であろうか。

- ① ホノギは、藩制時代における土地制度上の公的な最小単位の区画を示す。
各ホノギには、その場所を指定するための何らかの「小肩書き」が付され、或

いは「穂ノ木付」の絵図などが添えられた。

- ② ホノギ名は、それ自体は地名として独立しているとは言えないが、地名に準じた「小肩書き」として扱われる存在である。

小字名(地名あり)―ホノギ(準地名)―「町」(地名なし)の段階が見られる。

- ③ 土地の表示は、明治以後は連続した数字を用いた「筆」記載へと移行した。

「筆」の表現がいつから生じたのかについては、別個に考えなくてはならないが、すくなくとも前掲『清末藩旧記』に見える元禄3年(1690)には、すでに使われていた。

要するに、瀬口氏は土地制度の一環としてホノギを論じられ、私は“地名”の対象としてホノギを取り上げた。そうした視点の相違が、お互いに論議のすれ違いをもたらしたのかもしれない。ホノギについては、制度的にも地名的にもまだ調べるべき点が多いが、私自身の不勉強さにも恥じ入るばかりである。

柳田国男は『地名の研究』でホノギを取り上げたが、その書名が示すように、その関心は地名学の対象としてであり、土地制度の一環としてのホノギの検証ではなかった。柳田国男の立場に拠った私は、従って「ホノギ」制度としてではなく、「ホノギ名」を追求していたものと言える。あえて強弁すれば、地名がそこになければ地名学の対象ではありえないことになる。

山口県域では、瀬口氏が主張される“ホノギ＝一筆地”の方の軍配があたりそうな情勢だが、瀬口氏のコメントを得ながら、このテーマについて、なお論議を重ねてゆきたい。

時の流れに身をまかせ

岩国支部 中島順一

人生において、節目、節目があるように、土地家屋調査士もその時代に応じた節目があり、今大きな節目に来ているようだ。報酬基準額の撤廃、事務所の法人化、入札への移行等である。

これを「チャンス」と、とらえるか「危機」と、とらえるか、本人のとらえ方である。しかし、大勢にはさからえない。どうしようもない流れもあるのである。凡人には先の流れは読めないが流れに乗り遅れないよう、取り残されないよう、目を見開き頭の中を柔軟に保っていなければならない。

「規制緩和は、守るものでなく攻めるもの」どこかで聞いたような気がする。まさにその流れが来ているようだ。今、この原稿を書いている十数年前「農業と調査士業」というタイトルで、この会報に投稿した事を思い出す。内容は今回と同じような意味のものであったと記憶している。仕事が適度にあり生活が安定すると現状を維持したいと考えるし、変革を望まないものである。現状維持とは、「動く歩道」を逆方向に同じ速度で歩いているようなものだ。社会は、たえず進んでおり、たえず歩いていないと取り残されてしまう。私は、すでに取り残されそうになっている。パソコン、携帯電話等自由に操作できない。気持ちでは、わかっているのだが行動が伴わない。プライベートな部分は自分で操作するのだが、叩き壊したくなる。もう、老化が進んでいるのだろう。土地家屋調査士を開業して20数年になる。開業当初の意欲は今は無。

当初、地目変更1件でも嬉しかったが、今は口にはださないがしょうもないと思ってしまう。「初心忘るべからず」「おごる平家久しからずや」等ことわざは知ってはいるが、言うこととやることは別なのである。50才くらいで開業していれば、これから頑張ろうと思うであろうが長くやっているとマンネリ化して意欲が無くなってしまう。そのうち完全に取り残され、意欲も無くなり仕事も減少し廃業となるのであろう。土地家屋調査士の廃業パターンは、このようなものではなからうか。後5年で厚生年金の受給資格者となる。それまでは頑張りたいものである。このように書いてみると悲しくなってしまう。

私は今何を書こうとしているのだろう「時の流れに身をまかせ」どこかで聞いた歌だ。そろそろまとめなければならない。この業界は老人から若者まで年齢に開きがあり同じ土地家屋調査士、同等の身分であるにも関わらず、ものの考え方もいろいろで技術にも隔たりがあり、これをまとめるのは大変である。研修会等で会員を指導する場合、最先端の講義をするのか、中間的な講義なのか、あるいは最低水準に合わせて底上げをするのか、たぶん時代に応じた、ごちゃまぜの、ごまかしの講義となるであろう。

私の場合、最先端の研修にはついていけないかもしれないが落ちこぼれないよう「時の流れに身をまかせ」体の力をぬき、自然体で頭を柔軟に保ち、最低5年は頑張りたいと思っている。

追) 我家の雄猫「トラ」が死んだ。7年前、のら猫が我家に住みついたのだ。我家には、2匹の雌猫がいる。それを狙って「トラ」が来た。始め石を投げて追い払っていたが、

とうとう住みついてしまった。ぶさいくな猫であったが、飼っているとついで可愛かった。



用心棒「トラ」



箱入り娘



闘病中

政連だより

ごあいさつ

山口県土地家屋調査士政治連盟

会長 乗川良介

平成15年5月25日開催の、第3回山口県土地家屋調査士政治連盟の定時大会において、不肖私が第2代目の会長をお引受することとなりました。

当政治連盟は発足以来3年目に入りますが、前期2年間は瀬口会長の基で設立に始まり、組織作りにと大変御苦労されたことに対し新役員を代表して敬意と感謝を申し上げます。

政治連盟の役割は言うまでもありませんが、我々土地家屋調査士が行なう業務、すなわち表示登記の充実、発展を図る為側面から政治活動を通じて、会を援助する目的で設立されたものであり、日本土地家屋調査士会連合会、並びに山口県土地家屋調査士会の掲げる制度充実を期する目標指針に従って、全面的にバックアップをする事に意義があるものと考えています。

その意味からも、山口県土地家屋調査士会の前に出ることなく、常に山口会を中心として行動して行かなければならないということを実感しながら、活動を展開しなければなりません。

内においては、日本土地家屋調査士連合会、全国土地家屋調査士政治連盟、山口県土地家屋調査士会と密に情報を交換し、又外に対しては、政治家との絆を強固に持ち、土地家屋調査士制度の理解を求めていただくことに努力し、そして理解者を一人でも多く政界に送り出す一助となる事に意義を感じながら、地道な活動を展開して行く所存であります。

山調政連の会員各位におかれても、地区選出の副幹事長を中心に地域地域で、国、県、市町村の政界の先生方と語り合っ、制度のPRを行い、更なる土地家屋調査士制度の発展、充実のお手伝いをお願いするものであります。



まだ就任したばかりであり、何一つ手付かずではありますが、第3回定時大会で決議された平成15年度運動方針に沿って活動して行く所存であります。重ねて会員の皆様方の御協力をお願い申し上げます。

ここでお願い事がございますが、先にも述べた通り、制度充実の為の政治連盟であります。どうぞ主旨を御理解の上出来れば全員と申したいところではありますが、一人でも多くの会員の入会をお待ち致しています。

終りに、山口県土地家屋調査士会並びに本政治連盟加入の会員の皆様方の益々の御発展と、ご健勝、ご活躍を祈念し私の就任の挨拶と致します。

山口県土地家屋調査士政治連盟役員名簿

平成15年7月1日現在



役 職	氏 名	所属支部
会 長	乗 川 良 介	周 南
副 会 長	瀬 口 潤 二	宇 部
幹 事 長	下 野 洋 二	下 関
副 幹 事 長	大 森 正 秀	岩 国
"	戸 倉 茂 雄	周 南
"	阿 部 次 男	防 府
"	八 木 哲 郎	山 口
"	片 山 修 一 郎	萩
"	高 杉 千 河 生	宇 部
"	打 越 充 浩	下 関
会 計 責 任 者	三 好 一 敏	萩
会 計 責 任 者 職 務 代 行 者	杉 山 浩 志	岩 国
監 事	松 田 昌 祐	周 南
"	東 章	岩 国

顧 問	衆 議 院 議 員	高 村 正 彦	山 口 第 一 区
	"	平 岡 秀 夫	山 口 第 二 区
	"	河 村 建 夫	山 口 第 三 区
	参 議 院 議 員	林 芳 正	山 口 全 区
	山 口 県 土 地 家 屋 調 査 士 会 顧 問	三 好 敏 夫	萩

事務局だより

会員異動状況

1. 会員入会状況

	氏名(生年月日)	入会年月日	事務所	TEL	FAX
	まえ た ひろ ぶみ 前 田 浩 史 (S47.8.6)	H15.5.1	〒753 0045 山口市黄金町3 13	(083) 934 9333	(083) 934 9334
	まつ むら ゆき お 松 村 幸 雄 (S42.1.16)	H15.5.12	〒755 0055 宇部市居能町1丁目5 33	(0836) 21 2141	(0836) 21 9238

2. 会員脱会状況

支部	氏名	脱会年月日	備考
宇部	本光誠二	H15.5.31	脱会
岩国	唐本黒田郎	H15.6.30	廃業

3. 事務所住所変更

支部	氏名	変更年月日	変更事項	変更内容	TEL	FAX
周南	高松孝一	H15.4.10	事務所	〒744 0013 下松市栄町3丁目3 15	(0833) 43 5252	(0833) 44 8160
周南	西本聡士	H15.5.2	事務所	〒743 0031 光市虹ヶ丘1丁目16 13		
山口	平岡真二	H15.5.2	事務所	〒753 0046 山口市本町1丁目2 2		(083) 920 2533
周南	山本良正	H15.6.20	事務所	〒745 0801 周南市大字久米3236の13	(0834) 25 3310	(0834) 25 4149
		H15.5.6	住所	〒744 0027 下松市南花岡7丁目1 3		
山口	小山末男	H15.4.24	事務所	〒753 0811 山口市大字吉敷3669の15	(083) 922 8545	(083) 922 8545
			住所		(083) 922 8545	
萩	伊藤正典	H15.5.11	住所	〒759 4106 長門市仙崎1104の1	(0837) 26 0651	

支 部	氏 名	変 更 年月日	変更事項	変 更 内 容	TEL	FAX
岩 国	長 井 龍 夫	H15 .6 .2	事務所	〒742 2806 大島郡橋町大字西安下庄1009の3	(0820) 77 1409	(0820) 77 1415
下 関	高 橋 清 行	H15 .5 .1	事務所	〒750 0009 下関市上田中町5丁目3 10		(0832) 22 4516
防 府	田 村 求	H15 .6 .15	事務所	〒747 0063 防府市大字下右田429の4	(0835) 21 2660	(0835) 25 2294
下 関	大 田 浩 治	H15 .5 .26	住 所	〒750 0009 下関市上田中町4丁目6 12 804号	(0832) 31 6751	
山 口	若月慎一郎	H15 .8 .5	事務所	〒753 0001 山口市大字宮野上86の1	(083) 934 1350	(083) 934 1355

4 . TEL ・ FAX 等変更

支 部	氏 名	変更事項	変 更 前	変 更 後
岩 国	濱 田 年 一	メールアドレス	新規	hamadato@bronze.ocn.ne.jp
岩 国	河 村 誠 一	メールアドレス	新規	kawa-se7739@sweet.ocn.ne.jp
岩 国	中 島 順 一	メールアドレス	新規	j1112@mocha.ocn.ne.jp
岩 国	田 村 直 久	メールアドレス	新規	nt25@soleil.ocn.ne.jp
岩 国	沖 廣 哲 裕	メールアドレス	新規	okihiro@orange.ocn.ne.jp
岩 国	荒 川 和 子	メールアドレス	arakawa@orion.ocn.ne.jp	arakawa@sky.icn-tv.ne.jp
岩 国	難 波 文 雄	TEL	(0820)22 0724	(0820)22 0017
岩 国	角 田 和 芳	メールアドレス	新規	kkadota3@bronze.ocn.ne.jp
岩 国	小 原 秀 夫	メールアドレス	新規	k-office@minos.ocn.ne.jp
岩 国	河 近 卓 美	メールアドレス	新規	mt.kawachika@r5.dion.ne.jp
周 南	田 中 拓 朗	メールアドレス	takurou@office-tanaka.com	takurou@ymg.urban.ne.jp
周 南	高 木 健 守	メールアドレス	新規	ktakagi@mx5.tiki.ne.jp
周 南	三 浦 隆	メールアドレス	miura3@lime.ocn.ne.jp	miura3@joy.ocn.ne.jp
周 南	曾 根 章 文	メールアドレス	新規	shoubuns@deluxe.ocn.ne.jp

支 部	氏 名	変更事項	変 更 前	変 更 後
周 南	林 洋 子	FAX	(0833)41 5621	(0833)41 5615
		メールアドレス	新規	milkyway@kvision.ne.jp
防 府	阿 部 次 男	メールアドレス	新規	abejimusho@smile.ocn.ne.jp
山 口	藤 野 洋 一	メールアドレス	新規	aio-sr@c-able.ne.jp
山 口	福 田 裕 之	メールアドレス	新規	fukuda33@plum.ocn.ne.jp
山 口	有 井 幹 夫	メールアドレス	ANB59181@nifty.com	341higasiyama@bb.excite.co.jp
山 口	渡 邊 一 正	メールアドレス	CQW22503@nifty.ne.jp	CQW22503@nifty.com
萩	長 田 幸 三	メールアドレス	新規	ranka@stellar.meon.ne.jp
萩	上 村 栄	メールアドレス	新規	kamisama@viola.ocn.ne.jp
宇 部	瀧 野 基 雄	メールアドレス	新規	m-takino@c-able.ne.jp
宇 部	松 岡 博	FAX	(0836)44 8010	(0836)44 8011
宇 部	町 紀美幸	メールアドレス	okm@mbc.sphere.ne.jp	okm@mbc.ocn.ne.jp
宇 部	西 野 誠 二	メールアドレス	新規	nishino-j@mx5.tiki.ne.jp
宇 部	板 垣 龍 夫	メールアドレス	itagaki@bronze.ocn.ne.jp	itagaki-t@itagaki-ss.co.jp
宇 部	木 村 哲 俊	TEL (自宅)	(0836)32 2090	(0836)32 3736
宇 部	和 泉 誠	FAX	(0836)22 8164	(0836)22 8165
宇 部	本 光 誠 也	メールアドレス	新規	seiji.motomitsu@nifty.com
宇 部	藤 井 明 彦	メールアドレス	新規	piano_49@themis.ocn.ne.jp
宇 部	松 村 幸 雄	メールアドレス	新規	y.matamura@chu-sui.co.jp
下 関	濱 崎 進	メールアドレス	hamask02@tip.ne.jp	hamasaki 1 @hamasaki-jso.com
下 関	池 本 賢 治	メールアドレス	新規	BQY11246@nifty.ne.jp
下 関	無 敵 良 和	メールアドレス	新規	zbm54594@sky.zero.ad.jp
下 関	柴 田 浩 志	メールアドレス	新規	sibata03@tip.ne.jp
下 関	藤 山 政 志	FAX	(0832)87 3653	(0832)87 0666
下 関	秋 里 秀 男	メールアドレス	新規	akisato.jim@jcom.home.ne.jp
下 関	清 水 浩 二	メールアドレス	新規	shimizu21@jcom.home.ne.jp
下 関	大 田 浩 治	メールアドレス	新規	ko_ota@nifty.com
下 関	中 橋 明 弘	FAX	(0832)87 0695	(0832)87 0666

会務報告

開催日	会 務	場 所
15. 5月2日(金)	会報編集会議	調 査 士 会 館
14日(木)	司法書士会 定時総会	吉 敷 郡 小 郡 町
17日(土)	岩国支部総会	玖 珂 郡 由 宇 町
18日(日)		
22日(木)	定時総会打合会	調 査 士 会 館
	法務局訪問	山 口 地 方 法 務 局
23日(金)	萩支部総会	長 門 市
	宇部支部総会	小 野 田 市
25日(日)	調査士会 定時総会	ぱ る る プ ラ ザ 山 口
26日(月)	法・司・調三者協議会	山 口 地 方 法 務 局
30日(金)	社会保険労務士会 通常総会	山 口 市
	公嘱協会 臨時総会	ぱ る る プ ラ ザ 山 口
	中国ブロック協議会会長会議打合会	調 査 士 会 館
31日(土)	行政書士会 定時総会	山 口 市
6月3日(火)	中国ブロック協議会会長会議・監査会	広 島 市
6日(金)	九州ブロック協議会 定例総会	熊 本 市
7日(土)		
11日(水)	日司連 中国ブロック総会	吉 敷 郡 小 郡 町
13日(金)	正副会長会議	調 査 士 会 館
21日(土)	周南支部総会	周 南 市
25日(水)	日調連 定時総会	東 京 都
26日(木)		
28日(土)	山口支部総会	調 査 士 会 館
7月1日(火)	第2回理事会	調 査 士 会 館
4日(金)	山口法律関連士業ネットワーク定期大会 打合会	調 査 士 会 館
8日(火)	紛議事案打合会議	山 口 地 方 法 務 局
10日(木)	中国ブロック協議会 定例総会	広 島 市
11日(金)		
12日(土)	愛媛会 業務研修会	愛 媛 会
17日(木)	総務部会	調 査 士 会 館
19日(土)	鳥取会 境界鑑定業務研修会	米 子 市
22日(火)	中国ブロック協議会事務局事務引継	調 査 士 会 館
30日(水)	総務・財務部会	調 査 士 会 館
	業務部会	調 査 士 会 館
	広報部会	調 査 士 会 館
	本部業務部と支部企画委員との協議会	調 査 士 会 館
8月8日(金)	山口法律関連士業ネットワーク定期大会	山 口 市
19日(火)	「総合的な ADR の制度基盤の整備」についての説明会	福 岡 市
	常任理事会	調 査 士 会 館
22日(金)	広報部会	調 査 士 会 館
24日(日)	公嘱協会 通常総会	ぱ る る プ ラ ザ 山 口
26日(火)	日調連主催ブロック別担当者会議	広 島 市
31日(日)	第3回理事会	調 査 士 会 館
9月3日(水)	司調共催囲碁大会	司 法 書 士 会 館
4日(木)	綱紀委員会	調 査 士 会 館
	会報編集会議	調 査 士 会 館

広報部からのお知らせ

「史跡めぐり in 周南」 「大津島へようこそ。離島ですごす秋の1日」

徳山沖に浮かぶ、大津島は、320世帯あまり人口約550人が暮らす漁業と農業中心の静かな島である。この島は太平洋戦争中、人間魚雷「回天」の基地があったことで知られている。今も、馬島の海にたたずむ発射場跡は、周防灘に沈む夕陽にその姿をひっそりと映し出す。

徳山港を出港した巡航船は、左に公共埠頭のコンテナクレーン、倉庫群をみながら沖に出て行く。しばらく行くと東に太華山の山並み、南にすくもの島影を残し、船はへ先を西に向け始める。右手に迫る島が銘石、とく山みかげの産地、黒髪島である。そして、むきだしの石切り場を横目に船は進む。

ポーッ。フェリーボートは汽笛を轟かせながら、正面に見える刈尾港に入っていく。ようこそ、大津島に。

本会の親睦行事として、今年度は周南支部が史跡めぐりを引き受けました。とても広い周南市ですが、今回は周南市の南端に位置する、大津島にご案内します。回天の発射場跡、回天記念館などの史跡探訪や、波止場からの投げ釣り、また島ならではの集落の間をぬう細い路地。のんびりとした島の風情に触れてみてください。

会員、家族、事務所職員の方、多数の参加をこころよりお待ちしております。

日 時： 平成15年10月11日(土) 9時20分集合
集合場所： 周南市築港町 大津島巡航船待合所前
・JRをご利用の方 徳山駅新幹線口より徒歩5分
・車をご利用の方 徳機駐車場

【当日の予定】

- 9:20 集合
- 9:50 徳山港発（フェリーボート大津島丸にて）
- 10:19 大津島刈尾港着
徳山湾を望みながら約3.5キロを歩きます。
- 12:00 大津島ふれあいセンター着
昼食（ふれあいセンターにてご用意しております。）
- 13:30 回天基地跡、回天記念館、モニュメント「未来の風」
等散策ください。
波止場で釣りもできます。（釣り道具は各自持参のこと）
- 16:00 馬島港発（フェリーボート大津島丸にて）
- 16:42 徳山港着
解散



案内図



発行 山口県土地家屋調査士会
〒753 0042 山口市惣太夫町2番2号
電話 (083) 922 - 5975
F A X (083) 925 - 8552
ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~yamatyo/>
Eメール yamatyo@orange.ocn.ne.jp
振替 01590 - 5 - 11085
発行者 山口県土地家屋調査士会
会 長 瀬口 潤二
広報担当副会長 西本 聡士
広報部長 無敵 良和
理 事 富永 弘
" 藤本 精二
印刷所 大村印刷(株)



山口県土地家屋調査士会

〒753-0042 山口県山口市惣太夫町2番2号
TEL083-922-5975 FAX083-925-8552
ホームページ<http://www1.ocn.ne.jp/yamatyo/>
Eメールyamatyo@orange.ocn.ne.jp